

# 元六原小学校発掘調査説明会資料

2011年 8月 20日

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

遺跡名：六波羅政庁跡・六波羅蜜寺境内

所在地：京都市東山区松原通大和大路東入2丁目轆轤町82(元京都市立六原小学校内)

調査期間：2011年6月13日～9月上旬(予定)

調査面積：約500m<sup>2</sup>

## 1 はじめに

今回の調査は、元六原小学校内での、京都市立開晴小・中学校第2校舎新築工事に伴う発掘調査です。調査地は六波羅政庁跡・六波羅蜜寺境内にあたっています。

六波羅蜜寺は、応和3年(963)空也上人が鴨川の東に御堂を建立し、西光寺と呼んだのをはじまりとします。空也上人の没後、六波羅蜜寺と名が改められました。六波羅政庁跡は、平安時代後期には平家一門の六波羅邸があったところで、文治元年(1185)壇の浦の合戦で平家滅亡後、跡地を源頼朝が接收し、北条氏が鎌倉幕府の政庁(六波羅探題)を設けました。

## 2 見つかった遺構

調査では室町時代の遺構が見つかっており、門跡・築地(塀)・柱穴・溝・土坑などがあります。

調査区の東側では門跡と門に取り付く東西方向の築地跡、同じく東西方向の溝が2条見つかりました。門跡には左右それぞれ3つの礎石が据えられており、中央が門の親柱、前後が支柱のものです(四脚門)。門に取り付く築地跡は、ほとんど痕跡をとどめていませんが、わずかに高みとして残っています。築地の南側(内側)には並行して溝が設けられています。この溝は門の部分が途切れており、とくに東側の溝は門の部分で南に曲がっており、この部分が通路となっていたことがわかります。

一方、調査区の西側は西に下がる斜面となります。自然地形の急な斜面を東側から埋め立て、高台の平坦面を拡張した様子がうかがえます。また、高台の端には南北方向の堀が掘られています。堀は断面がV字をなし、深さ約1.8mもある深いものです。一般に「薬研堀」とよばれる防御用の堀と考えられます。

その他に土坑(穴)が多数あり、瓦器の鍋や釜などが埋納されているものが多いことから、中世の墓跡と考えられます。

## 3 まとめ

今回の調査地である六原小学校は、明治5年(1872)に六波羅蜜寺境内の一部に建てられました。したがって、今回検出した遺構の多くは、六波羅蜜寺にかかわる遺構であると考えられます。

とくに調査区の東部で検出した東西方向の築地跡や溝跡は、門から境内への導線が六波羅蜜寺本堂の西端とほぼ一致していることから、六波羅蜜寺の北限を示す遺構であるとみられます。

また、西側の堀(堀135)は、北端が築地の部分で東側に屈曲していることから、築地に関係した遺構とみられます。この堀の西側は西に落ちる崖面となるため、六波羅蜜寺の西端を限る堀を検出したものと考えています。

以上のとおり、今回の調査では室町時代の六波羅蜜寺境内の北西隅を調査し、寺域の北限と西限の位置を確定できる成果となりました。



堀 135(南から)



門跡(南から)



Y=-20,760

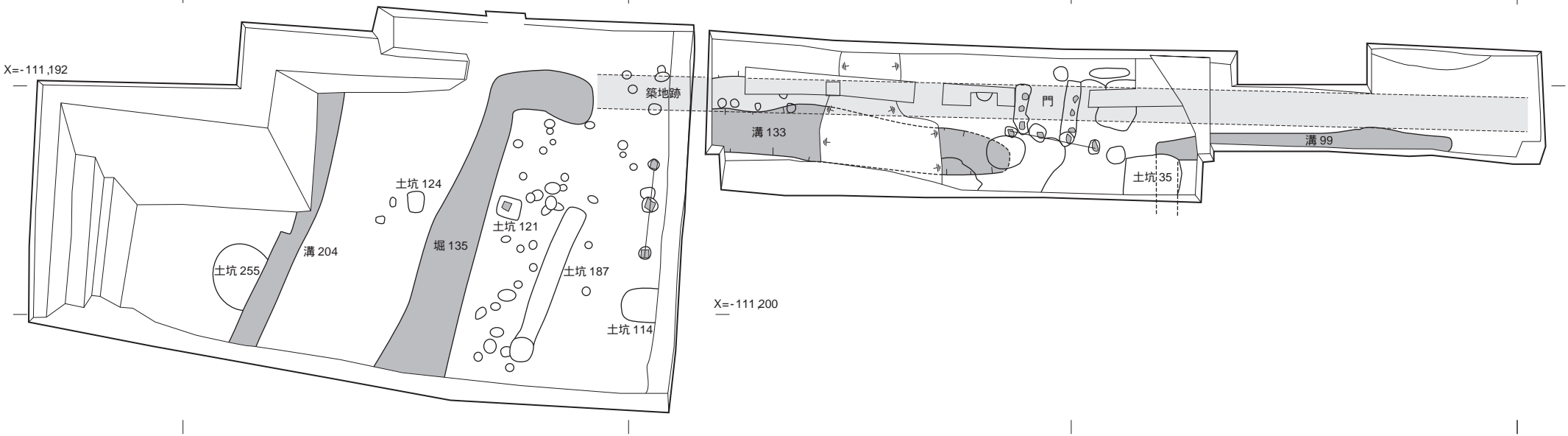
Y=-20,744

Y=-20,728

Y=-20,712

X=-111,192

X=-111,200



遺構平面概略図 ( 1 : 200 )



『都名所図会』（1780）に描かれた六波羅蜜寺（東南から見た図）